

雌阿寒岳の火山活動解説資料

札幌管区气象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベル2（火口周辺規制）が継続＞

雌阿寒岳では、本日（8日）09時15分頃から、ポンマチネシリ96-1火口でごく小規模な噴火が発生しています。この噴火による大きな噴石の飛散は確認していません。また、この噴火の前後で地下の火山活動の状況に特段の変化は認められていません。

火山活動の活発な状態が続いており、今後もポンマチネシリ火口から約500mの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

【防災上の警戒事項】

ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。地元自治体などの指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

風下側では火山灰や小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

○活動概況

本日（8日）09時15分頃からポンマチネシリ96-1火口でごく小規模な噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上の高さ約100mまで上がり南東に流れました。11時現在も噴火は継続中です。この噴火による大きな噴石の飛散は確認されませんでした。雌阿寒岳の噴火は、10月25日に発生したごく小規模な噴火以来です。

上徹別監視カメラでは、この噴火の発生前から96-1火口周辺の雪面に火山灰と考えられる噴出物の付着が認められていました。雌阿寒岳では2月27日、3月1日及び6日に振幅の小さい火山性微動が発生し、これらの微動と概ね同時期に96-1火口近傍の阿寒富士北2観測点ではわずかな傾斜変動が認められました。また、6日夜から96-1火口近傍のポンマチ南観測点で火山活動に起因すると考えられるわずかな振幅レベルの増減が認められており、6日夜頃から8日朝の間にもごく小規模な噴火が発生していた可能性が考えられます。

今回の噴火の前後で、火山性地震の状況などのその他のデータに特段の変化は認められません。

○活動評価

雌阿寒岳では火山活動の高まった状態が継続しています。ただし、本日（8日）の噴火前後に、地下の火山活動状況に大きな変化は認められておらず、火山活動がさらに高まる兆候は認められません。

引き続き、ポンマチネシリ火口から約500mの範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性があります。

この火山活動解説資料は、気象庁のホームページでも閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/now/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の『数値地図10mメッシュ（火山標高）』、『数値地図50mメッシュ（標高）』、『電子地形図（タイル）』及び『基盤地図情報』を使用しています

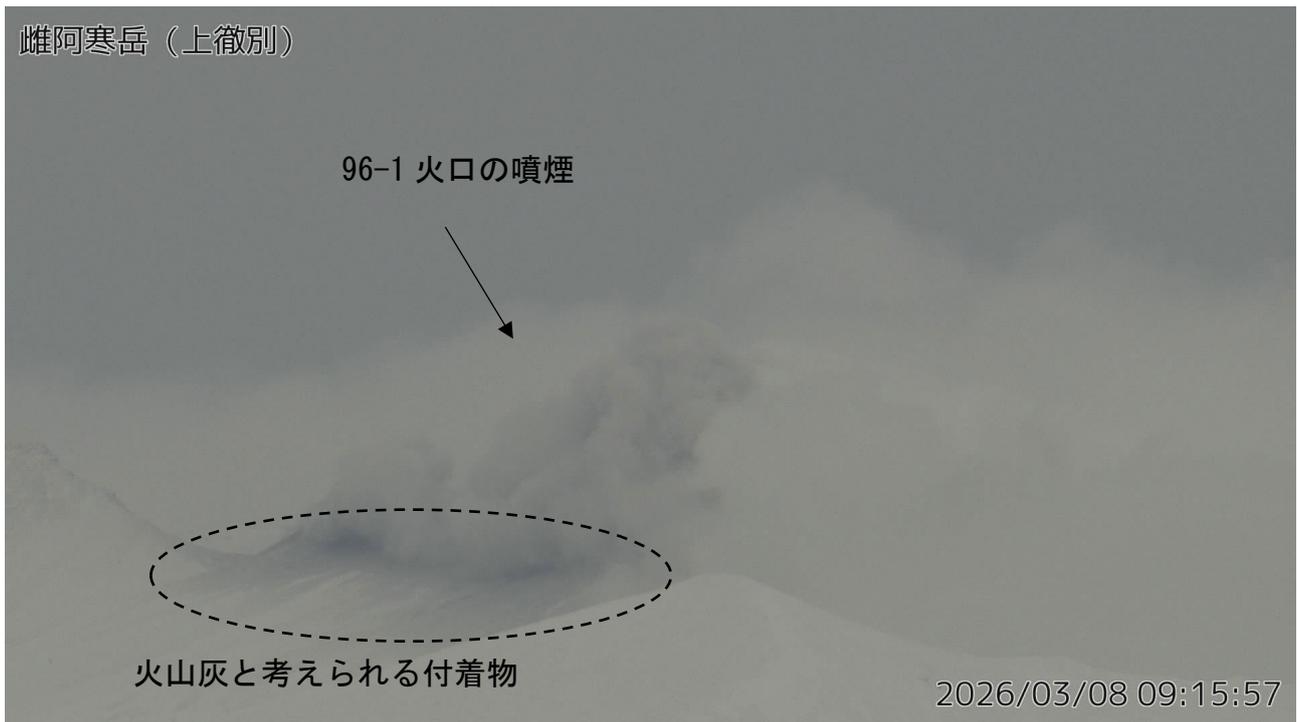


図1 雌阿寒岳 ポンマチネシリ 96-1 火口の噴煙・噴気の状態（上徹別監視カメラによる（雌阿寒岳の南東側））

- ・本日（8日）09時15分頃から、ポンマチネシリ 96-1 火口でごく小規模な噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上の高さ約100mまで上がり南東に流れています。
- ・ポンマチネシリ 96-1 火口周辺の雪面に火山灰と考えられる付着物が認められます。

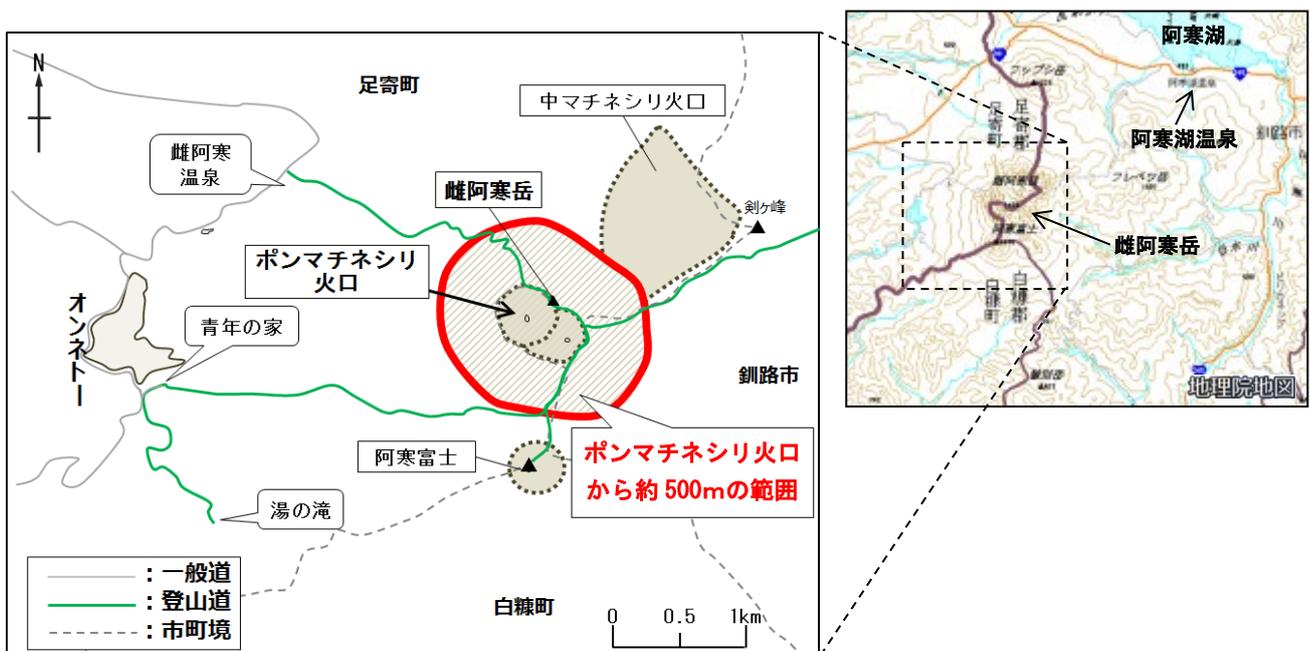


図2 雌阿寒岳 警戒が必要な範囲

- ・引き続き、ポンマチネシリ火口から約500mの範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

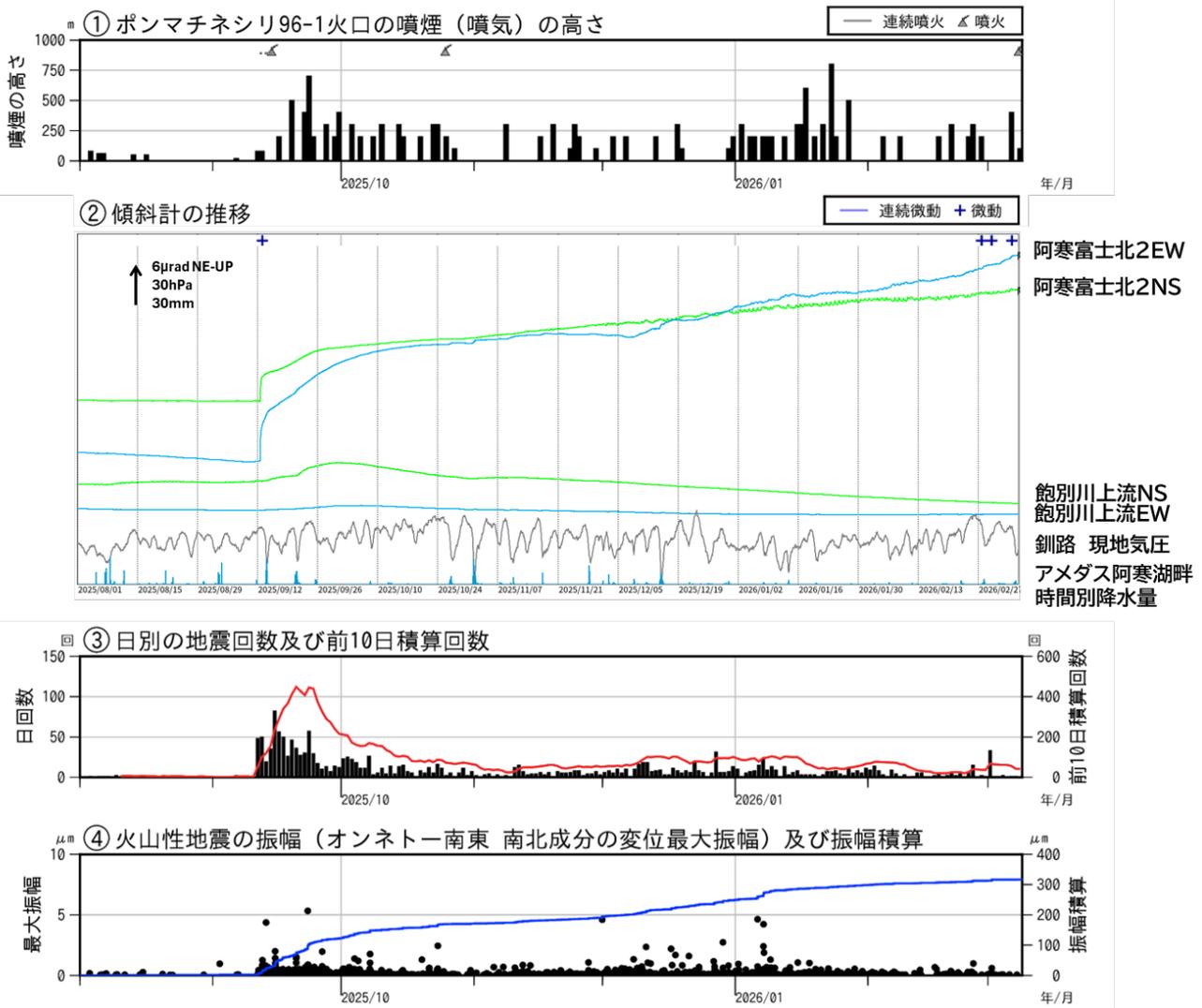


図3 雌阿寒岳 傾斜変動の状況（2025年8月1日00時～2026年3月8日10時）

- ・②の傾斜計データは降水や気圧変動の影響と考えられる変動が含まれています。
- ・2025年9月の噴火は、9月12日から15日の間に発生したと考えられます。
- ・③④の期間内に発生した火山性地震はポンマチネシリ火口付近の浅部で発生したものが多数を占めています。
- ・2025年9月12日の火山性微動に伴い主に阿寒富士北2観測点でポンマチネシリ火口方向が上がる傾斜変動が観測され、ポンマチネシリ96-1火口の噴煙活動が活発化し、10月頃以降も緩やかな火口方向上がりの傾斜変動や活発な噴煙活動が継続しています。また、2025年12月上旬から、阿寒富士北2観測点の傾斜計の変動方向にわずかな変化がみられています。
- ・地震回数は、2025年10月頃以降は概ね少なく経過していますが、2025年9月の活発化前と比べてやや多い状態が続いています。
- ・2月27日、3月1日及び6日に振幅の小さい火山性微動が発生しました。これらの微動と概ね同時期に阿寒富士北2観測点ではごくわずかな傾斜変動が認められました。

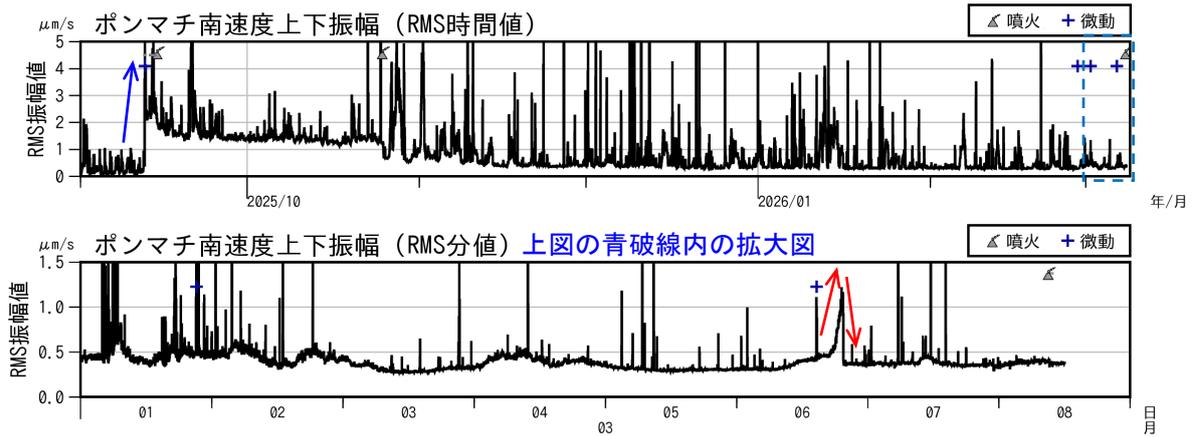


図4 雌阿寒岳 ポンマチ南地震計上下成分 RMS振幅の推移
(2025年9月～2026年3月8日11時頃)

- ・RMS振幅レベルは火山活動だけでなく気象状況等の影響でも増減します。
- ・2025年9月の噴火は、9月12日から15日の間に発生したと考えられます。
- ・2025年9月12日の火山性微動の発生後、ポンマチ南の地震計で振幅レベルが高まり（青矢印）、その後もそれ以前と比べてやや高い状態で推移しています。
- ・3月6日の夜に振幅レベルの小規模な増減（赤矢印）が認められました。

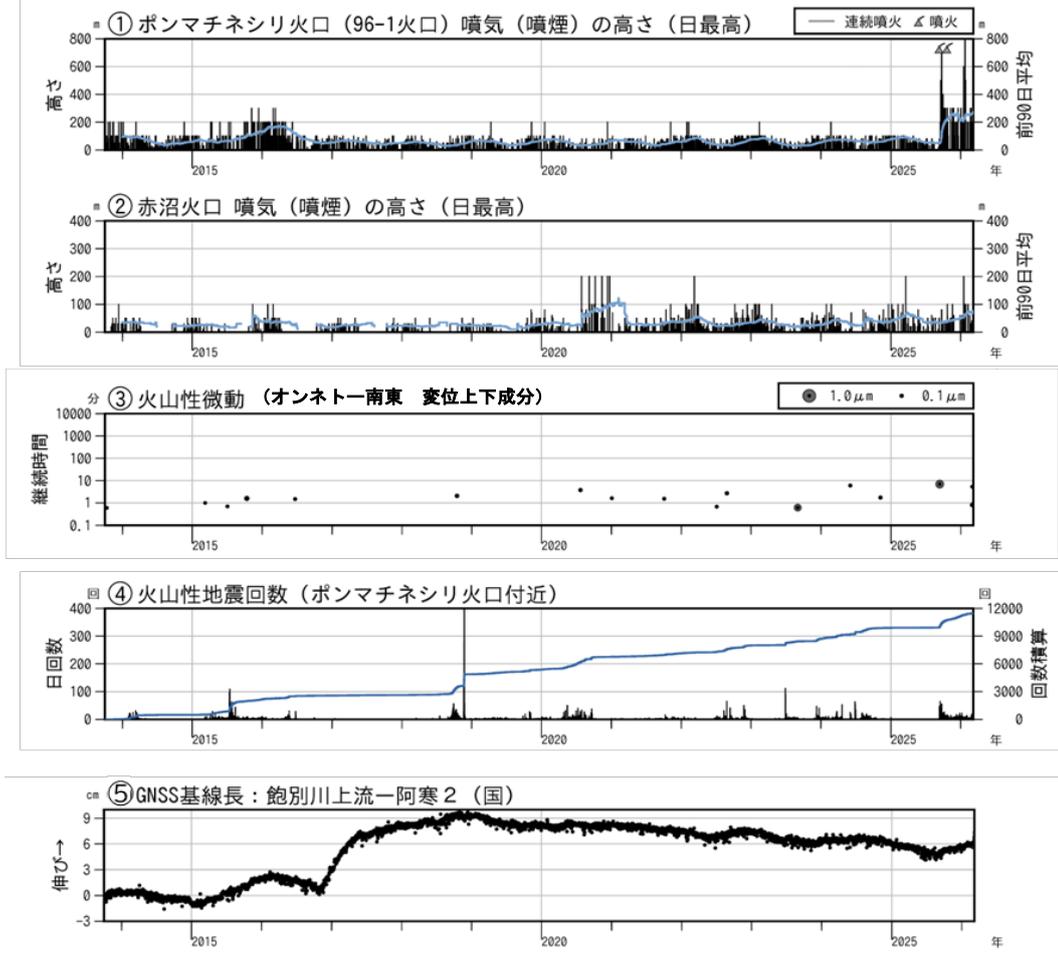


図5 雌阿寒岳 火口別の活動経過図 (2013年10月～2026年3月7日)

- ・グラフ④の回数は、雌阿寒岳付近で発生したと計数した地震のうち、発生領域が明瞭にポンマチネシリ火口付近と識別出来たもののみを計数しています。
- ・グラフ⑤は、GNSS連続観測の基線図(図6)基線⑨に対応しています。
- ・ポンマチネシリ火口付近の地震活動は、2025年9月の活発化前と比べてやや活発な状態です。また、96-1火口の噴煙の高さは、2025年9月12日以降、高い状態が続いています。

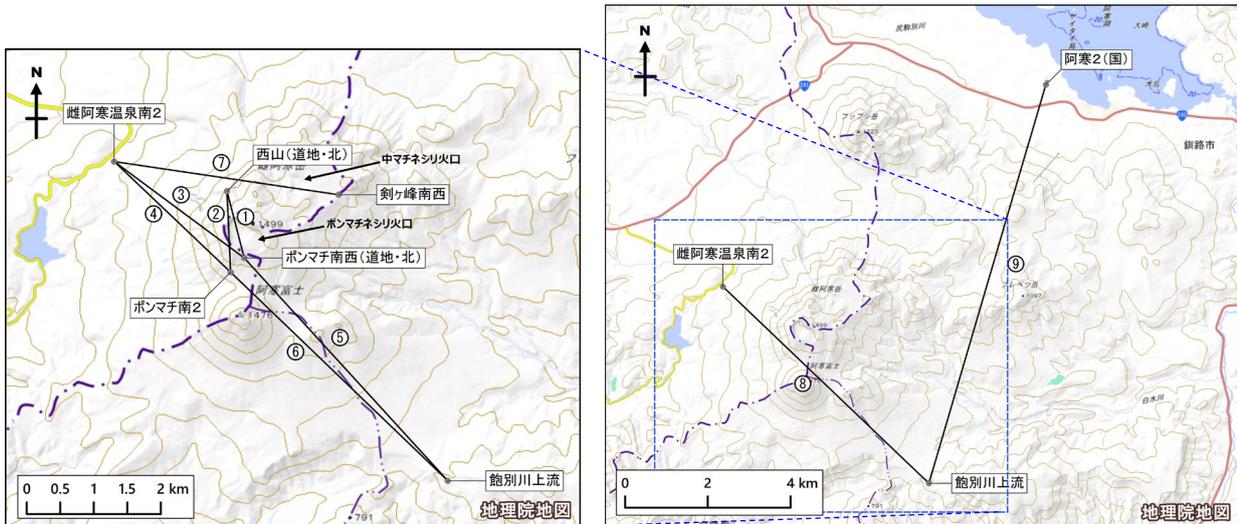


図6 雌阿寒岳 GNSS連続観測の基線図

・基線番号⑨は、図5のグラフ⑤に対応します。

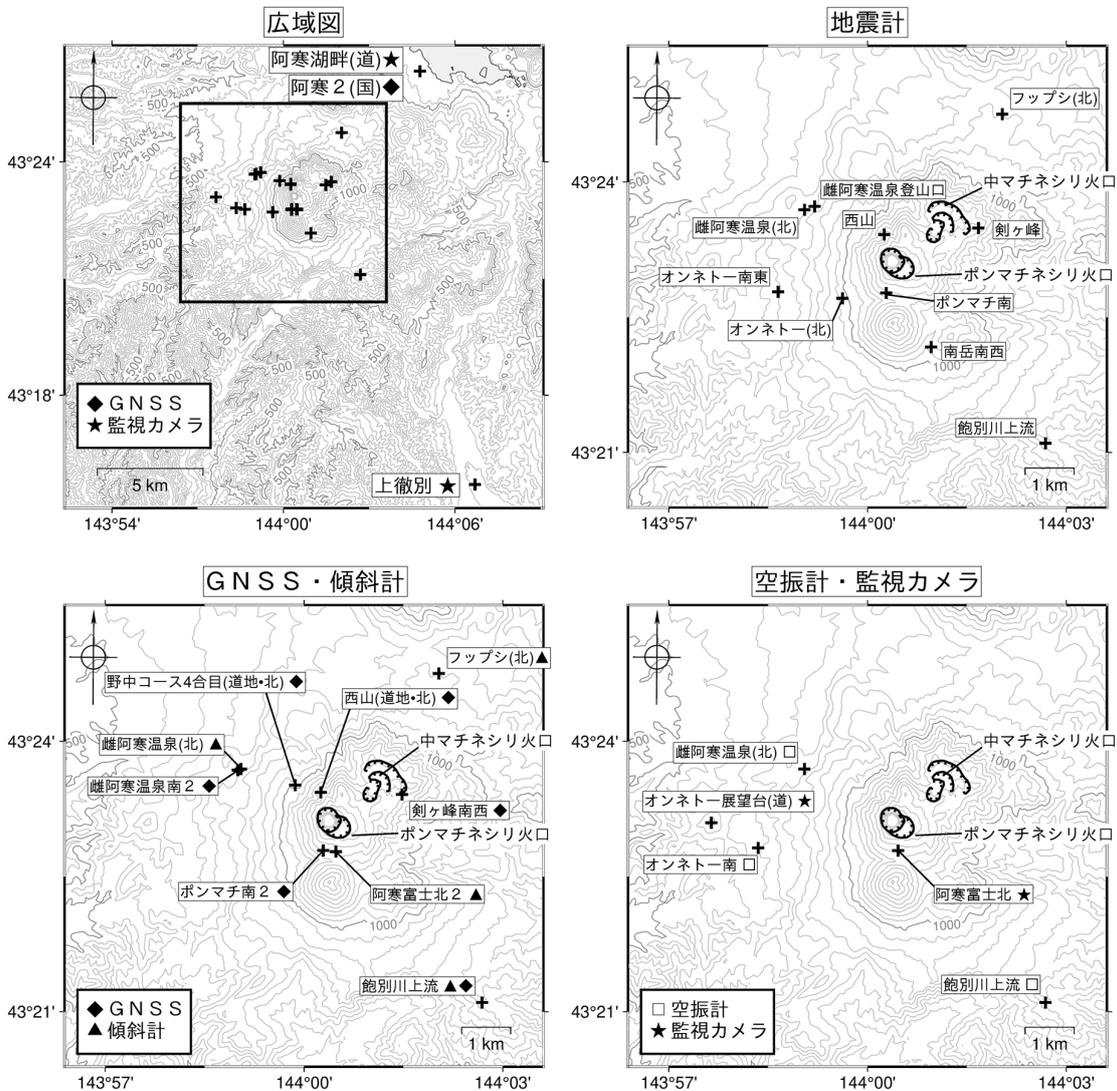


図7 雌阿寒岳 観測点配置図

各機器の配置図は広域図内太枠線で示した領域の拡大で、+印は観測点の位置を示します。気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国) : 国土地理院 (北) : 北海道大学 (道) : 北海道
(道地) : 北海道立総合研究機構エネルギー・環境・地質研究所